

山梨県・B 級グルメで活性化図る甲府市

～「鳥もつ煮」グランプリが弾み～

日本不動産研究所 甲府支所
不動産鑑定士 森松 祐介

甲府市は武田信玄の時代に城下町が大きく拡大し、駿府や小田原と並ぶ東国有数の都市に発展した。また、明治 22 年には、関東で東京・横浜・水戸に次いで甲府の市制が施行された。戦前、甲府に一時在住していた太宰治はその作品の中で「シルクハットを倒さまにして、その帽子の底に、小さい小さい旗を立てた、それが甲府だ」として、甲府盆地の中心にあるハイカラで文化のしみとおっているまちと表現している。



「甲府駅前に鎮座する武田信玄像」

しかし、現在の人口は全国の県庁所在地のなかでも下から 3 番目の約 19.7 万人で、人口減少や少子高齢化が進んでおり、郊外の大型ショッピングセンターの影響により、中心市街地は元気がない。また、新宿まで特急で約 1 時間半のため、若年層の流出等のストロー

現象による地盤沈下も起きている。

このような状況下で現在、郷土料理「鳥もつ煮」を基点としたまちおこしが行われている。

「鳥もつ煮」とはニワトリのもつを少量のタレを使い強火で短時間のうちに照り煮した料理で、終戦まもない頃甲府市内の蕎麦屋が捨てられる鳥のもつを利用して考案した。そのためこの料理は焼き鳥屋ではなく主に蕎麦屋で出されており、地元の人には蕎麦の前に一杯やりながら食べるのが風習となっていた。



「鳥もつ煮」

この「鳥もつ煮」で町を活性化しようと、平成 20(’08)年に甲府市職員の若手有志が立ち上がり、地元を始め全国への PR 活動を行った。

そして、B 級ご当地グルメの祭典「B-1 グランプリ」平成 22(’10)年大会で「甲府鳥もつ煮」として初出場ながら優勝を納めた。

この大会はメディアへの露出が多いため、優勝した団体は地元地域に大きな経済効果を生み出す。実際に優勝翌日には有名店に県外からのお客が詰めかけ、客足は普段の 5 倍以上、スーパーでの調理セットは完売、その後もメニューに加える店も増えたことから精肉店での取扱量は増加、甲府駅前にも有名店が新規出店するなど、その効果が実感された。

この優勝を契機として甲府では B 級ご当地グルメによるまちおこし機運が高まった。翌

年の10月にはご当地グルメでの地域活性化に関するシンポジウムが行われ、12月には全国の「B級ご当地グルメ」を集めたイベントが開催され、2日間で約11万人を集客するなど盛り上がりを見せた。



「ご当地グルメを宣伝する駅観光案内所」

また、平成24(’12)年の11月には「美味きもの山の如し!」と銘打った関東・東海限定の大会が開催される予定で、これにも相当な集客が予想されている。

地元を愛する市職員によって始まったまちおこし。今後も地域の食文化を活用した取り組みを通じて、地域が持続的に賑わいを取り戻すことが期待される。